

立命館宇治中学校・高等学校 2020年度 学校目標 年度末報告シート

区分	教育目標		中期目標		D. 自己評価	E. 具体的施策(どのような方法で)		
	A. 課題(上位目標)	B. 目標(中位目標)	C. 達成目標(当年度目標)					
I	①国際化教育:高い外国語運用力と広い視野をもって異文化を理解できる能力の育成 ②情報化教育:情報機器を活用し、情報の受信・発信する能力の育成 ③統合と卓越の教育:統合された知識と卓越した能力の育成 ④貢献:高い倫理観をもち、社会・世界に貢献できる姿勢の育成	I. 豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成 II. 高い外国語運用力と広い視野をもって、異文化を理解できる能力をもった生徒の育成 III. 高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成 IV. 向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成 V. 地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランド力の確立と生徒募集力の向上 VI. 魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備	1 自立した学習者の育成	(1) 各教科で学力の数値目標(定期試験・模試・検定)を設定し、達成の確認を行う。	△	模試などによる定点観測		
				(2) 学年・コース毎で生徒の家庭学習時間を向上させる取り組みを強める。	◎			
				(3) 生徒が授業に能動的主体的に参加する工夫を行う。	◎	生徒アンケートによる追跡ビデオ教材などの配信 Zoom授業など		
				(4) 校外の人材・組織・機関と連携し、社会の到達点を体感できる教育を行う。	△			
				(5) 教科の学びを啓発する図書館運営を行う。	△	図書紹介、図書館の授業活用		
				2 特色ある教育プログラムの開発と普及	(1) 新しいグローバル教育モデルを構築する。(WWLコンソーシアムALネットワーク構築事業)	◎	ネットワークの拡充	
					(2) 教科横断による「コア探究」の教育プログラムを創り上げる。(WWLカリキュラム開発事業)	◎	引き続きコアカリキュラムの開発	
					(3) 文科・理科コースの取り組みのストリームへの移行。	○	SDGsなどの充実	
					(4) IMコースの留学を土台とした人材育成プログラムの充実。	○	留学の可能性を追求	
					(5) IBコースの到達点の維持と中学IPSの拡充。	○	IPコースの募集を成功させる	
					(6) ICT活用による学びの質的転換と教員の作業合理化	◎	デジタル採点の導入、悉皆PCの完成	
				3 大学と連携した長く広い視点を持った進路指導	(1) 大学学部との連携・接続教育の実施	△	オンラインの実施	
					(2) 適切な進路情報の提供とサポート	△	オンラインの実施	
					(3) 国際系学部・海外大学への進路指導の対応	△	卒業生交流、情報提供、大学との連携による国際系学部プログラム説明会	
				II	高い外国語運用力と広い視野をもって、異文化を理解できる能力をもった生徒の育成	1 異文化体験の充実	(1) 安全に留意し、質の高い留学派遣を実施する。	△
(2) 海外研修旅行の安全な実施。	×	新研修旅行の具体化 AFS、EFIなど新規団体からの受入						
(3) 積極的に留学生の受け入れを行い、留学生の学びの満足度も高める。	○							
(4) 学校内外での多様な異文化体験の機会を設定する。	△	ZoomによるWOW実施など						
2 帰国生支援	(1) 帰国生への情報提供ときめ細やかな支援を行う。	◎	体験入学の受入、帰国生保護者会実施					
	3 高い語学運用能力の養成	(1) 高い語学力を持つ生徒のさらなる引き上げ	○				習熟度クラス実施、模擬国連やビジネスコンテストなどの外部コンテスト、セブ島留学	
		(2) 全体水準の引き上げと大学が求める水準の全員クリア	○				TWICE等の補習実施	
(3) 英語を活用した取り組みの開催。		△	スピーチ・プレゼンコンテスト、R-TALK Ujiの実施、 English Campへの参加					
(4) 第二外国語の取り組み強化と情報発信。		△	中国語検定、ドイツ語検定、フランス語検定の本校受験、立命館大学との連携講座					
III	高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成	1 オープンマインド醸成と学校全体の一体感	(1) 学年・コースさらには学校全体で共に存在している実感が得られる取り組みの実施				○	行事の実施可能性を追求
			(2) 気持ちよく挨拶できる雰囲気形成				○	定期的呼びかけ、生徒会活用
			(3) 教室清掃・持ち物の管理・正しい制服の着用など凡事の徹底				△	定期的呼びかけ、生徒会活用
		2 生徒が自ら主人公と考える学校運営	(1) 生徒会、ホームルーム運営委員会など生徒の自主的組織の活動量の増加	○	オンラインでの他附属校、地域学校生徒会との交流			
			(2) 学園祭を大きな節目とする組織運営	△	学園祭の充実			
		3 生徒の自主活動・貢献活動	(1) 枠組みを超えて互いの奮闘を励ましあえる関係づくり	○	活動成果の総務部への集約			
			(2) 生徒の能力を引き出す指導方法の研究	◎	研究会の実施、WOWの充実			
		4 人権意識の涵養	(1) 視覚覚行事の実施	△	芸術鑑賞など			
			(2) インターネット・SNSとの関係を学ぶ機会の提供	○	講演会の実施			
			(3) 非行・いじめの早期発見と適切な対応	○	いじめ防止委員会の実施			
			(4) 平和や人権・環境を考える取り組み	○	平和授業の実施、生協メニューの協議			
		IV	向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成	1 成長する教職員集団	(1) 研修(校内・校外)での実施・参加	◎	オンラインで実施	
(2) 研究授業・公開授業・研究会の実施	○				研究会の実施、ICTの発表			
(3) 経験の浅い教員への支援	△				研修会実施、マニュアル整備			
2 働き方改革の段階的進行	(1) チームワークと仕事の合理化(勤務時間の測定)			○	KOTの活用			
	(2) 休日・休養日の確保(年休5日取得)			◎	時間割の工夫、継続呼びかけ			
	V			地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランド力の確立と生徒募集力の向上	1 地域連携	(1) 土曜市民講座・スポーツ教室・小学生体験講座の実施	×	2018年のノウハウを踏襲
(2) 公共交通機関利用マナー向上		△	定期的呼びかけ、生徒会活用					
2 保護者連携		(1) 丁寧な懇談会・説明会の実施による相互理解の促進	◎		保護者会との連携			
		(2) 保護者アンケート・生徒アンケートでの実態把握	○		卒業生交流			
3 同窓会		(1) 学校とのつながり強化	◎		現職教員の幹事任命			
		(2) 卒業生の活躍の広報	○		鳳凰会等を通じた情報収集			
4 生徒募集	(1) 附属3校の共同歩調を強めた取り組みの展開	×	合同説明会の開催					
	(2) WEB広報の強化	○	HP見直し					
	(3) 国内外の募集活動の強化	◎	オンライン入試の実施					
5 リッツキッズ	(1) 高い能力を持つ英語学習者の誘引	○	広報の拡充、口コミ					
	(2) 質の高い低年齢教育の実現	○	講師の充実					
	(3) Kids経験児童の入学強化	○	双方の教員の連携					

VI	魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備	1 保健室との密接な連携	(1) ところとからだの健康に配慮した連携	○	保健室との連携強化
			(2) 教育相談・HAT・カウンセリングの体制づくり	△	HAT会議の継続実施
		2 学習環境の整備	(1) ICT利用の利便性の向上(デジタル採点システムの導入)	◎	講習会の実施
			(2) 修繕・危険箇所の集約	○	一斉点検の実施
			(3) 新校舎実現	◎	工事開始にともなう諸対応
		3 リスクマネジメント力の強化	(1) 避難訓練の実施と防災対策	○	安否確認訓練の実施
			(2) 避難誘導の見直し	◎	クレオテックとの合同訓練
			(3) スポーツ活動中における迅速な事故対応(アスレチックトレーナーの配置)	○	ATCによる講習の実施
		4 安心安全の生徒寮運営	(1) 学習する雰囲気づくりとイベントを通じた寮生自治組織の充実。	○	寮生会の自治を支援
			(2) 寮生の健康管理, 新型コロナ感染症の拡大予防	◎	消毒の徹底, 熟食の徹底

達成状況 新型コロナウイルスの流行により、当初計画とは大幅に異なる1年となった。4-6月は登校禁止状態への対応、その後は、感染予防と諸活動の両立、3学期には教職員で3名の感染者が出る中での感染対応が求められた。並行して、「働き方改革」の初年度であり、勤務管理をしながらの学校活動を維持することも求められ、例年とは全く様相がちがった。しかしながら、学校の持つ「地力」が試される中で、当初予定とは異なるものの学校のもつポテンシャルが極めて高いことを、この非常事態の中で内外に証明できた1年であった。

改善策 新しい取り組みへ果敢に挑戦するエネルギーに満ちた風土の一方で、日常のルーチンがきちんとこなせていないことによるミスやトラブルが散見された。また、高校で3つのコース、2022年度からは中学でも2つのコースを抱える中で、独自性と相互理解をどのように両立していくかが次年度の課題となる。

学校関係者評価に関する事項	委員会の構成	亀田 晃巖 氏(唯明寺住職)、山仲 修矢 氏(教育後援会会長)、出雲 健彦 氏(鳳凰会会長)、河田 優 氏(保護者会会長)、井上 修一 氏(保護者会副会長)、栢本 亜紀 氏(保護者会副会長)、宇和村 哲明 氏(保護者会副会長)、横澤 広久 氏(立命館一貫教育部部長)、森田 真樹 氏(立命館大学大学院 教授)、浮田 恭子 氏(宝塚大学准教授)、チャールズ フォックス 氏(前校長)
	委員会開催日程 主な議題	2021年3月25日(木) 15:00~16:30
	評価、改善事項	コロナ禍の中で、学校が感染予防と教育活動の両立に取り組んできた経緯と、WWLの活動について報告した。委員からは、未経験の事態の中で、学校が臨機かつ迅速に対応し、他校と比べても諸活動を維持継続してきたことへの評価と、その結果として生徒募集が非常に好調であったことへの評価があった。今後の課題として、諸活動の結果として最終的にどのような生徒を育てたいのか、どのような学校像をもっているのか、ということを経営的に議論していくよう、期待された。